

Australia Japan Emerging Research Leaders Exchange Program
日豪若手研究者交流促進事業（第1回）

[事業概要]

本事業は2008年の日豪政府間合意にもとづく政府間事業であり、日豪両国の研究リーダー育成と両国間の研究連携促進を目的とする。それぞれの国で選ばれた若手(30～45歳)研究者各8名が、相手国に2週間滞在し、多くの代表的な研究機関を訪問して、最先端の研究者と意見を交わすことにより、研究リーダーとして必要な知識や人的ネットワークを得るとともに、日豪研究連携の可能性を見出す。

豪州側は豪州工学アカデミーが、日本側は(独)日本学術振興会(全体の管掌と研究者への経費支給)と(社)日本工学アカデミー(運営実務)が実施機関となった。2009年にこの三者が合意文書に署名し、2010年に相互派遣を実施した。

[実施内容]

第1回の相互派遣にあたり、両国にとって最も関心の深い研究分野として、A:エネルギー・環境、B:新材料・資源、C:バイオ・その医学的応用の3つのテーマを選定し、各分野2～3名、計8名ずつを日豪両国で選んだ。日本では2009年8月に豪州派遣者を公募し、22名の応募者があったが、その中から有識者による審査委員会での審査を経て8名を決定した。

<日本⇒豪州> 2010.2.13 出発～2.27 帰国

A: 川喜多仁(物質・材料研究機構)、谷本潤(九州大学)、林浩志(三菱マテリアル)

B: 足立吉隆(物質・材料研究機構)、越野雅至(産業技術総合研究所)

C: 大橋俊朗(北海道大学)、後藤デレック(北海道大学)、竹内純(東京大学)

訪問先例: Univ. of Melbourne, Monash Univ., Univ. of Queensland, Univ. of Sydney,
Univ. of New South Wales, CSIRO など

<豪州⇒日本> 2010.11.13 出発～2010.11.27 帰国

A: V. Kambala (Univ. of South Australia), D. Page (CSIRO), D. Roberts (CSIRO)

B: W. Cheng (Monash Univ.), G. Conibeer (Univ. of New South Wales),

A. Tanksale (Univ. of Queensland)

C: J. Nigro (CSIRO), J. Tu (Macquarie Univ.)

訪問先例: 北大、東北大、東大、東工大、京大など、産総研、NIMS、理研など、企業・団体など

[事後評価]

両国の派遣研究者は、短期間に集中して多数の研究機関を訪問でき、優れた研究者と交流できたことを高く評価している。これは他の研究者派遣事業には見られない大きな特色といえる。それぞれの研究者が期待どおり日豪研究連携の可能性を見出し、日本側研究者の殆どはすでに何らかの連携を開始している。豪州側では11月に来日した豪州研究者の日本再訪に対する渡航費支援プログラムを用意していて、2名の再来日が決定している。日本の豪州研究者訪問受け入れ先の多くも、その訪問が自部門にとっても有意義であったと評価している。

以上